

皆さま、こんにちは。  
府中教会、アンドレアです

重い皮膚病は、今日では、治療できるものかもしれませんが、イエスの時代には薬も治療法もないとされ、重い皮膚病を患うことは、終身刑を受けることと一緒でした。重い皮膚病を患っている人は、まだ生きている間に、社会的宗教的に死んだと同然なので、社会生活や祭儀に加わることが許されませんでした。荒れ野に追放され、誰とも交わることができないので、生きながら孤独の地獄に落とされました。この人が守らなければならない掟はただ一つで、不注意に近づく人があれば、「わたしは病気にかかっている」と叫んで、自ら関係を断たなければならない、というものでした。それでは、「よろしい。清くなれ。」こうイエスは答えます。重い皮膚病が癒されるのは、死から蘇るのも同然です。

さて、奇跡はだれに起こったのか、その場所は、その時刻はどうだったのか、まったく物語られていません。つまりそれは、私たちに起こる奇跡、私たちにとって今という時刻、ここという場所で起こる奇跡として、物語られています。まず、重い皮膚病についての記述はすべて、社会からはじき出される状況を示唆するものです。他の人が近づくとき「汚れている」と叫ばなければならないほど、どこの社会でも「のけ者」にされています。私たちの社会や町や教会にいる「のけ者」にされている人々の叫びに、私たちはどのように答えますか。この福音書に耳を傾ける時、イエスに向き直り、イエスに信頼するなら、物語られている出来事が、今、ここで、私たちに実現するに違いありません。

